

◆3年生（第11回生）保護者アンケート集計結果の分析・考察

およびご意見への回答◆

1. 今年度の保護者アンケートについて

本校では、各学年の保護者会については年に1回開催している。3年生の保護者会は、今年度は6月末に実施した。これは、5月から始まった臨地実習が3クール目を迎える時期であり、実習における学生の様子を伝えることができること、また、本格化する就職・進学といった進路に関することや、国家試験対策に関する情報の提供をするのに適した時期であると判断したためである。また、新型コロナウイルス感染症の「第6波」が比較的落ち着いた時期でもあったことを理由とする。

今回、はじめての試みとして「授業参観」を導入した。対象科目は統合分野の医療安全演習（ロールプレイ）とし、1年次からの学習の成果を参観いただいた。アンケートの自由記載からは「授業参観は新鮮だった」「成長を感じられた」とおおむね肯定的な意見を頂戴できた。

今回、授業参観ならびに保護者会に出席された保護者の方々を対象に「本校の教育活動に関するアンケート」調査を実施した。出席できなかった保護者の方々に対しては、アンケート用紙と返信用封筒を自宅に郵送し、協力を仰いだ。この郵送分については、アンケートの設問「9」の一部を変え「当校へのご要望、ご質問等を自由にご記入ください。」とした。

なお、このたびのアンケート回収率は79.2%（アンケート対象数：24、回収数：19）であった。（*アンケート対象数が在籍学生数と異なるのは、授業参観にのみ参加され帰宅された方にはアンケートを配布できなかったため。帰宅された方を特定できなかったのでアンケートの郵送は行わなかった。）

2. 集計結果の分析・考察

1) について、8割以上の保護者が「知っている」（よく知っている、だいたい知っている、やや知っている）と回答した。これは、「1年生保護者会」および「2年生保護者会」で強調して説明する内容であり、本校のホームページにも掲載されているため、「知っている」との回答が高くなったものと考えられる。「ほとんど知らない」という回答は約2割であった。本校は公立の専門学校であり、地域医療の担い手となる看護人材を養成することを設置趣旨としている。そのため教育理念・目的は学生を育成する最大の拠り所であるため、今後も保護者の方々に知っていただくような対応を考えていきたい。

2) について、「1. 目標に向かって自分の課題に取り組めるようになった」が最もおおく、次いで「4. 他人への思いやりや気配りができるようになった」と「6. 医療や看護などのニュースやトピックスに関心をもつようになった。」が同数であった。この3点は、3年次の学年目標および本校の卒業時の到達目標に繋がるものであり、学生は確実に学びの成果を獲得していると言える。とりわけ「6. 医療や看護などのニュースやトピッ

クスに関心をもつようになった。」については、本校の教育を形成する主要概念の1つである「自己教育力」の土台となるものであり、着実に看護の専門職業人に近づきつつあると言える。学生の一番身近におられる保護者の方々が、看護師になるための成長を実感していることがうかがえ、大変喜ばしい結果となった。

3) について、全保護者が「主体的に学習できている」(とても主体的に学習できている、主体的に学習できている、ある程度主体的に学習できている)と回答した。本校は専門課程を持つ専修学校であり「高等教育機関」である。ここでの学習スタイルは、与えられるのを待つのではなく、自らの頭で考え疑問を探求していく「自主能動」の姿勢が求められる。今回の結果に甘んじることなく、引き続き教員は授業の構成を工夫し、一人ひとりの学生の主体性を引き出すような支援をしていく必要がある。

4) について、9割以上の保護者が「知っている」(よく知っている、だいたい知っている、やや知っている)と回答した。特別教育活動については、ここ数年のコロナ禍において規模を縮小しての開催、あるいは中止の判断をせざるを得なかったこともあり、ねらいにそった活動ができているとは言い難い。しかし「看護学生としての自覚と協調性を養い人間性を育成する」ことを目的とする価値ある活動であるため、最終学年の今年だからこそ、学生一人ひとりが「酒田看護専門学校で学んだ3年間」を総括し、自己の成長を実感できるような活動を考えていく必要があるものとする。

5) について、全保護者が「満足している」(とても満足している、満足している、ある程度満足している)と回答し、本校の進路指導については肯定的に捉えられていることが分かった。今後も学生の意思を尊重し、学生一人ひとりにあった支援・指導を心がけていきたい。

6) について、「知っている」(よく知っている、だいたい知っている、やや知っている)は約6割、「ほとんど知らない」は4割という結果となった。このスクールカウンセリングについては、本年度から運用された事業である。4月に全学生を対象に、そのねらいや開設曜日・時間、予約方法などを説明している。スクールカウンセリングは本校の学習支援の一環であるため、ホームページ等を活用して保護者の方々への周知を図る必要がある。

7) ー1. について、保護者の約6割が「なっていない」「見たことがない」という回答であった。うち、「見たことがない」との回答が約5割に上り、PR不足を実感した。ホームページは酒田市立酒田看護専門学校の情報発信の場であることを、入学時や2年次の保護者会等で発信していくことが必要かと考える。いずれにしても「見たくなるようなホームページ」になるよう工夫していく必要がある。

新しい情報がタイムリーに得られる」と回答したのは約4割にとどまったが、次の設問の7) ー2. で具体的な意見を頂戴できたので、これらの意見を参考に早急に改善を

図っていききたい。

8) について、「話をする機会をもっている」(よくもっている、もっている、ある程度もっている)は約9割にのぼり、学生と保護者の方々とのコミュニケーションがよく図れていることが明らかになった。(当校に限らず)看護専門学校のカリキュラムは非常に過密で、その学習内容の特性上、臨地実習における「対人関係」に大きなストレスを感じる学生も少なくない。そのような中であっても「看護師になりたい」という初志を貫こうとする学生をあたたく見守っていただいている様子がうかがえた。私たち教員も学生のもつ可能性を信じ卒業のときまで成長を促していききたい。

9) の自由記載については、授業参観で子どもの姿をみて成長を感じた一との感想が多かった。このたびの授業はロールプレイとディスカッションを主とした授業形態だったので、学生同士が双方向で意見を述べ合うことが大事であったが、学生の声小さかった一というご意見は、教員の授業評価にも繋げていなくってはならない貴重な声と認識している。また、教職員への感謝の言葉も頂戴でき、たいへん有り難く励まされる思いである。

《最後に》

今回のアンケート調査にご協力を賜りました保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。頂戴した回答ならびご意見は関係者および関係各所と共有し、本校の教育の質向上に向けた資料として活用させていただきます。

本校教職員一同、この結果を真摯に受け止め、看護の専門職業人の育成にむけてよりよい学校教育を行うよう努めて参ります。今後とも、保護者の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年8月1日
酒田市立酒田看護専門学校
副学校長 渡會睦美